

今日の説教のポイント <マタイによる福音書6章1-4節>

神の報いを求める善行より無欲の善行の方が上？ 聖書の答えは？

①「見てもらおうとして、人の前で善行をしないように注意しなさい。さもないと、あなたがたの天の父のもとで報いをいただけないことになる。」(1)

今日の箇所を読んで、「善行の勧めは分かるが、神様の報いを期待して善行を行うなら、結局、報いを求めて行うのではないのか。無私無欲の善行の方が優るのではないか」、と思う人もいます。この問題を考えてみましょう。

無私無欲の善行はあるのでしょうか？ 無いとは言えないと思います。パウロも、「善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれない」(ローマ5:7)と語っています。しかし、これもまた、そうするに値すると思った場合になされたのだとするなら、無私無欲だとは言えないかもしれません。パウロは先の言葉に続いて、「キリストは私たちが罪人であった時に死んで下さった」、と述べるのです。受けるに値しない者のために行われる無私無欲の善行。私たちに可能でしょうか？

②「隠れたことを見ておられる父が、あなたに報いて下さる。」(4)

聖書は、父なる神様が命ぜられるのだから善行を行え、と教えています。言い換えると、それは、私が相手をどう思うかによって左右されるような善行ではないということです。何の理由で飢えているか、何の理由で牢に入れられているかに関係なく、「最も小さい者」に行われるように神様が命じられる善行(マタイ25章)、それがここで考えられている善行です。大事な点は、神様のことを考えているということです。「無私無欲の善行の方が上では」と思い巡らしているとき、神様のことは考えられているのでしょうか？

もう一つ大事なことがあります。将来に与えられる報いだけ考えていたら、それは違うということです。今与えられている「現在の報い」も考えなければなりません。自分が周りの人に認められているかどうか全てであった昔。しかし今は、神様の存在を知らされたのです、「もう私は神様に認められている！ 神様が私をいつも見つめて下さっている。それで十分だ」、そう思いながら生きられる「現在の報い」がすでに与えられているのです！ 何かを手に入れるために善行をしなければならぬではありません。既に与えられている神様の報いに感謝しながら、人に知られない善行をなして生きようではありませんか。